

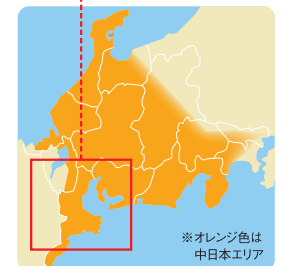
東名阪道・伊勢道
紀勢道・新名神



自然と
人をつなぐ
道づくり



これからも「生物多様性に配慮した取り組み」を
続けていきます



中日本高速道路株式会社
名古屋市中区錦 2-18-19
三井住友銀行名古屋ビル 〒460-0003
TEL:052-222-1620
<http://www.c-nexco.co.jp>



二〇一三年三月に紀勢道 紀勢大内山IC〜紀伊長島IC間が開通し、東名阪道、伊勢道、紀勢道、新名神を利用して、伊勢・熊野方面へのアクセスが大変便利になりました。伊勢道と新名神は、伊勢志摩国立公園や鈴鹿国立公園などの自然豊かな地域を通過するため、長年にわたり生物多様性に配慮した様々な取組みを行ってきました。ここでは、その取組みの一部を紹介します。



亀山西IC付近の様子

2 改変面積の最小化

新名神の鈴鹿国立公園を通過する区間は、改変面積を最小化するためのトンネルと橋で通過しています。

ここでは、周囲の自然環境との調和を目指し、並行する川は自然型護岸としました。さらに、生物が這い出し可能な排水溝を設置し、のり面には地域性苗木を植えるなど、様々な対策を行いました。

3 自然遷移の促進

伊勢道は、伊勢志摩国立公園の一部を通過するため、周辺自然環境への影響を最小化する様々な対策を行いました。特に勢和多気JCT〜伊勢IC間の切土のり面の勾配を緩やかにして、周辺から植物が侵入しやすくなることで、植生の自然遷移を促進し、周辺景観との調和をはかりました。

春には松阪IC付近でサクラを、秋には玉城IC〜伊勢西IC付近でモミジを楽しみながら走ることができます。



松阪IC付近の春の様子



玉城IC〜伊勢西IC付近の秋の様子

4 希少植物の移植

紀勢道の建設地内で絶滅危惧種のミヤマムギランが確認されたため、環境の変化が少ない場所へ移植しました。移植した株はその後も順調に生育しています。



ミヤマムギラン

1 「地域性苗木」による樹林化

地球温暖化の抑制や生物多様性保全のため、高速道路のり面を積極的に樹林化しています。建設現場では、周辺に自生する種子をあらかじめ採取して、その種子から育てた「地域性苗木」を植えています。



植樹の様子(伊勢道 伊勢IC)

地域性苗木を用いることで、地域に自生している樹種を植えることができます。さらに、他の地域の植物との交雑を避け、地域が本来持っている遺伝子レベルで生物多様性を保全することができます。

これまでに、新名神・伊勢道・紀勢道で合わせて約三万四千本を建設工事で植栽しました。

また、伊勢ICでは、二〇一三年の式年遷宮に合わせ、伊勢神宮付近の森で採った種から育てていた苗木約七百本を、地元の方々と一緒に植樹しました。



ICにサギが集まる様子

5 サギと高速道路との共生

東名阪道の蟹江ICと弥富ICには、毎年春になると数千羽のサギが飛来・営巣します。サギのコロニーとしては東海地方最大級で、これほど大きなコロニーは高速道路では他に例がありません。

サギの生息環境の保全と高速道路の機能と安全の両立を確保するため、「愛知県 弥富野鳥園」及び「日本野鳥の会愛知県支部」と覚書を交わし、サギが道路に飛び出さない対策を実施したり、継続的にモニタリングを行うなど、三者でサギと高速道路との共生に努めています。